

折笠 友一 福島県二本松市 六十一歳

不慮のけがで体は不自由となり、車いす生活です。昔、逃れることのできない現実遭遇し、悲観する孤独な生活の私でした。当時、雑草に紛れ込み、ひっそりと咲いたんぼの花と出合いました。たんぼぼは、誰から見てももらえる訳でもないのに、雑草に負けないで一生懸命に咲いていたのでした。その姿は生き生きと、まさにたんぼぼの花に間違いありませんでした。凜として自分の花を咲かせているたんぼぼに、私は感銘を受けました。そして、人間なのに生きる形が変わることだけで悲しむ自分のことが恥ずかしく思いました。また、自分ばかりを責める惨めな姿に嫌になりました。どんな形であっても生きる命があることを教えられました。たんぼぼは自然と闘い、水と緑と大地に支えられていることを忘れないで、春になると自分の個性を表わし、美しく咲き誇るのでした。私はたんぼぼと友だちになりました。私の心は軽くなり、たんぼぼのように胸は咲きはじめました。不自由な体でも前を向いて生きようと思えました。たんぼぼの花を見ると当時のことは忘れられない大切な思い出です。たんぼぼは私の命の恩人と思っています。人間と自然と緑は共有していることを忘れてはならないのです。太陽の下、一輪のたんぼぼの花に私は感謝です。